

入澤 崇 龍谷大学長、文学部教授。'86龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。文学修士。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、'17に学長就任。

大場昌子 日本女子大学学長。日本女子大学大学院修了（文学修士）。桜美林大学を経て、'99日本女子大学文学部助教、'09同教授、'19から現職。専門はアメリカ文学。

江原昭博 関西学院大学教育学部准教授、高等教育センター副長。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。世界野球ソフトウェア連盟競技委員。大学基準協会研究所委員。

前田浩司 國學院大學学生事務部学生生活課課長。

前畑良幸 日本学生支援機構債権管理部長。'86龍谷大学法学部卒。'86日本育英会職員、'04日本学生支援機構職員。奨学事業戦略部長を経て、'198月から現職。

音 好宏 上智大学文学部教授。'90上智大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はメディア論。主著『放送メディアの現代的展開』ほか。

寅丸真澄 早稲田大学日本語教育研究センター准教授。早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程修了。博士（日本語教育学）。

森田耕平 大阪府立大学客員研究員。'17大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。'16から'18まで神戸大学国際教育総合センター特命助教。専門は日本語学。

外池 力 明治大学政治経済学部教授、大学院教務主任。明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程単位取得退学。専門はデモクラシー論、人権論。

丸山千歌 立教大学異文化コミュニケーション学部教授。国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程修了。博士（学術）。横浜国立大学を経て、'12から現職。

糸魚川順 学校法人聖路加国際大学理事長。'64立教大学経済学部卒。日本興業銀行常務取締役、興銀リース副社長、第一生命顧問などを経て、'07立教学院理事長。'16から現職。

須田誠一 学校法人上智学院人事局長。上智大学経済学部卒。人事グループ長、総務局長などを経て、'13から現職。

高木純平 近畿大学総合情報システム部技術課長補佐。民間のIT企業を経て、'07近畿大学に奉職。サーバー・ネットワークなどのインフラ設計・構築業務などに従事。

前川昌則 近畿大学総合情報システム部技術主任。大手SierにおいてSW開発、PJ管理業務に従事。'15近畿大学に奉職。多くの新規PJに参画し、近畿大学のICTを牽引。

須藤智徳 法政大学多摩事務部学務課主任。'00法政大学社会学部卒。同年、法政大学入職。スポーツ健康学部事務課、学部事務課教務システム担当などを経て、'16から現職。

永和田隆一 学校法人神奈川大学理事、事務局長。

柴田佳純 大阪医科大学看護学部助教。'18大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程修了。修士（看護学）。

河合久 中央大学国際経営学部長。'83中央大学大学院商学研究科博士前期課程修了。商学修士。中央大学商学部教授、同学部長、副学長を経て、'19から現職。

松山龍彦 国際基督教大学図書館主管。'14学習院大学大学院人文科学研究科修士課程修了（アーカイブズ学）。'16から大学歴史資料室を担当。共著『図書館の再出発』。

佐々木慶文 石巻専修大学理工学部准教授。'96東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。博士（情報科学）。株式会社セガ・エンタープライゼスを経て、'01から現職。

巴波弘佳 関西学院大学学長補佐、理工学部教授。'92東京大学理学部数学科卒。博士（情報学、京都大学）。専門は数理工学。

少路和伸 大阪府出身、大阪学院大学卒。グラフィックデザイナーとして就職するが、2年で退社し、日本一周の旅に出て、その後、独学で画家を志す。アクリル絵具を使った明るい画風に特徴があり、作品は絵本やCDジャケットにも使われている。'175月、九州芸術の杜に少路和伸美術館が開館。青森のアトリエとの間を車で往復しながら創作活動を続けている。

外川智恵 大正大学表現学部准教授。大正大学文学部卒。'92山梨放送入社。'01からフリーとして活動。NTT技術ジャーナルのトップインタビューなどを務める。



〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き 2019年
7月～8月

- 7月2日(火) 日本私立大学団体連合会の役員会総会
に出席
- 役員会総会において、私大連の長谷山
会長を私大団連の会長として選出・決定
しました。
- 7月9日(火) 文教関係国会議員に会長交代の挨拶
- 7月18日(木) 文部科学省幹部などに会長交代の挨拶
- 7月22日(月) 全私学連合・代表者会議に出席
私学の幼稚園から大学の団体の会長で
構成される代表者会議において、私大連
の長谷山会長を全私連の代表として選出・
決定しました。
- また同日、柴山文部科学大臣(当時)
をはじめ副大臣、政務官、文科省幹部な
どに、令和2年度私立学校関係政府予算
に関する要望書を手交しました。
- 7月23日(火) 第3回常務理事会、第4回理事会に
出席
- 7月25日(木) 文部科学省高等教育局私学部幹部らと
意見交換を行いました。

- 7月31日(水) 財務大臣および財務省幹部、文教関係
国会議員に会長交代の挨拶
- 8月27日(火) 文教関係国会議員に会長交代の挨拶



柴山文部科学大臣(当時)に
令和2年度私立学校関係政府予算に関する
要望書を手交する長谷山会長

開催報告

- 7月19日(金)～20日(土) **「第1回財務・人事担当理事者会議」開催**
「大学経営課題としての働き方改革」を
テーマに開催。73法人109名の参加が
ありました。
- 8月6日(火)～9日(金)

**「FD推進ワークショップ」【新任専任教員
向け】開催**
「大学教員の職能開発とFD」をテーマ
に開催。35大学86名の参加がありました。

- 8月20日(火)～21日(水) **「監事会議」開催**
「新たな時代の監事の役割」をテーマに
開催。70法人94名の参加がありました。
- 8月26日(月)～27日(火) **「教学担当理事者会議」開催**
「学修時間確保の現状と課題」をテーマ
に開催。73法人82名の参加がありました。
- 8月28日(水) **「大学ガバナンスに関する説明会」開催**
本年6月に策定した「日本私立大学連
盟 私立大学ガバナンス・コード【第1版】
」への理解を深めるとともに、令和2年4
月に施行される私立学校法の一部改正お
よび民法の一部改正(債権法改正)の内
容および学校法人に求められる対応など
に関する情報の提供を目的に説明会を開
催。97法人280名の参加がありました。
- 8月29日(木) **「コンシエルジュ会議」開催**
「大学とSDGs」大学がSDGsに取
り組む意義」をテーマに開催。45大学
47名のコンシエルジュ事業大学担当者の
参加がありました。



大学時報

奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第301号（2005年3月発行）から
詳細は

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



第384号（2019年1月発行）

【特集】

入学前教育の現状と課題



【座談会】
教職協働の現状と課題
【インタビュー】
新田 晃千氏（カバディ
日本代表選手）

第385号（2019年3月発行）

【特集】

進化する「キャンパス」



【座談会】
私立大学におけるキャン
パスのあり方
【インタビュー】
大迫 友紀氏（ガラス作家）

第386号（2019年5月発行）

【特集】

LGBT等に関する理解醸成と 大学の取り組み



【座談会】
大学における親子関係
—教育、学生指導を保
護者とともにどう展開す
るのか—
【インタビュー】
黒川 光博氏（虎屋第17代
当主・代表取締役社長）

第387号（2019年7月発行）

【特集】

学生寮を活用した国際交流、 グローバル人材育成の取り組み



【座談会】
私立大学におけるイン
ターンシップ推進を振り
返る
【インタビュー】
武下 利一氏（トナミ運輸バ
ドミントン部アシスタントコーチ）

座談会 「大学広報紙の課題と展望」

特集 「東京五輪開催と連携した大学の取り組み」

小特集 「英語4技能資格・検定試験と私立大学の入試改革」

表紙・大学点描 南山大学 だいがくのたから 東北公益文科大学

クロースアップ・インタビュー：

「阿部 賀寿男さん（株式会社阿部蒲鉾店代表取締役社長）」

編集後記

◆留学生は生活に関することや学習に関することなどさまざまな支援を必要としているが、絶対数の多い日本人学生の支援を優先せざるを得ないことが多い。また、予算の関係などもあり、積極的に支援できていないことが多いのではないだろうか。

しかし、今号特集における各大学の取り組みでは、留学生の支援をすることによって支援する側の成長を促す仕組みが確立されている。支援体制を持続可能なものにするためには学習サポートという狭義の体制作りでなく、広い視野をもって取り組むことが大切だということを教えている。また、学外にラボを設置することで複数大学の留学生が参加できる仕組みとなっている神戸大学の事例は、これからの大学間連携のあり方を示唆しており、大変興味深く思った。

留学生が困っていることを解決するのは、支援する側の成長や大学間連携のあり方に代表されるような新しい教育の仕組みを構築する好機でもあろう。

今号特集が広い視野から支

援体制を考える契機になることを期待したい。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・法政大学多摩事務部学務課学務担当主任 須藤 智徳)

◆「学部事務業務」と聞くとどのような業務を想像されるだろうか。実際の学部事務業務は実に多様だ。カリキュラム編成・履修登録、会議の準備、授業運営、入試検討・実行、定期試験の運営、成績評価、学費未納者への督促、留学登録、個別面談……

特に、少子化により学生募集が厳しくなっている今日、学生一人一人に対し、一層丁寧に対応することが求められており、例えば、授業に出席していない学生がいれば、すぐさま本人に連絡・面談・保証人へ連絡などを行っている。大学も多岐ではないだろうか。

今号の4大学からの報告はいずれも実に興味深いものであった。「在宅勤務制度」「窓口時間の短縮」「ICTの活用」「外部業者委託」など、年々増加する業務と働き方の変化に対しては、4大学のようにならざるを得ない取り組みが求められるのである。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・関西学院大学法学部事務

長筒井 弘幸

◆「あなたの声をお聞かせください」——世の中は調査やアンケートで溢れている。本号座談会を終えて考えてみた。実施側の「知りたい」と「回答側の「伝えたい」」が合致してこそ本当の声が聞けるのではないかと。

頭の中には、中学社会で学んだ需要供給曲線のグラフが浮かんできた。交点が価格やサービスであれば、そういう価値あるものが提供できているか。調査やアンケートは、実施側にこの問いを突きつけている。

クロースアップ・インタビューは画家の少路和伸さん。芸術もまた、観る人の声やダイレクトに聞こえてくる厳しい世界だ。こうしたところ、身を置いておられる中、一生懸命楽しく生きることがサバイバルなのだとおっしゃり、「考えたこと」と「感じたこと」を区別して自分の声や直感を信じて行動するという生き方を貫いておられることがとても印象的だった。

本誌も関係各位の「声」を反映した誌面にしていきたい。大学時報へのご意見・ご感想などをぜひお寄せください。(日本私立大学連盟事務局 権 藤和代)

